

第3回学びが喜び・ESD 連続公開講座

大西 浩明

- ◇日時 2022年10月27日(木) 19時～20時30分
- ◇方法 対面式とビデオ会議システム Zoom を使ったオンライン形式を併用したハイブリッド
- ◇会場 ESD・SDGs センター多目的ホール
- ◇参加者 対面9名、オンライン33名 計42名

「教員生活を enjoy する秘訣」

奈良市立朱雀小学校 中村友弥氏

1. 自己紹介

奈良教育大学出身 2009年奈良市立飛鳥小学校に勤務 現在教職14年目
ESD スペシャリスト
奈良市ラグビー協会理事 タグラグビー
NIE アドバイザー

2. 教育現場の現状

教員志望者の減少 教員数の減少(圧倒的に教員が足りていない)
優秀な教員の退職
新しい学び コロナ対策 多様化する児童のニーズ など
奈良市ではICTに力を入れている 「奈良市ICTポータルサイト」

本校では昨年度から教員が1名足りない状況が続く

コロナで教員が休まざるを得ない

数か月ほどは、2・3名いない日も 自分は6年生担任なのに卒業式に出られなかった

教員の魅力…子どもの人間形成に深く関わることができる

子どもとともに教員も日々成長できる喜び

子どもの成長につくすることができる喜び

子どもの喜怒哀楽を共有する喜び

以上のような喜びは、他の仕事にはなかなかない

3. 秘訣

① 「帰宅の刃 無限残業」

学校の働き方改革への取組状況

少しずつ残業する先生が減ってきている

しかしながら、休養時間が不足している 自己学習時間が不足している

スキル習得の時間…先輩、同僚から児童やや保護者への接し方などは学んでいることが多い

教科の指導法などは研修会やインターネットから学ぶことが多い

教員としての力量を高める場を自らもつこと

長期的な見通しをもつこと

定時に帰ることはいいことだが、その後の時間の使い方が大事だと感じる

② 「背後を取られたやつが悪い」

スキを見せたら自分が悪いということ

アンテナを張る力 気づく力 … 学級経営に生かされる

アンテナを広げ、気づく力をつけること

当事者意識をもつこと

人のせいにならないこと

「置かれた場所で咲きなさい」

子どもは親や教師の「言う通り」にならないが、「する通り」になる

子どもに何か伝えるのに言葉はいらない

どんな所に置かれても花を咲かせる心を持ち続けよう

境遇を選ぶことはできないが生き方を選ぶことはできる

③ 「それいけ キャンプ！」

I C T活用で便利になった面は大きいのだが・・・

校務支援システムの4月当初の設定は教頭や教務の仕事で、いやになることがある

→ リフレッシュしたい 自分場合はキャンプ

リフレッシュする機会や時間をもつこと

働くことは素晴らしいが、仕事の奴隷になってはならない

④ 「担任の名は。」

2学期から休業する3年生の代わりに担任に

学級懇談の自己紹介をどうするかで真剣に悩む

自分自身が楽しみを見つける 流行や旬を取り入れる

楽しいことを自らすること

⑤ 気づいたら理事だった件

学生時代は野球部（ピッチャー） そんな人間がラグビーに出会う

鬼ごっこができればやれる競技 個人差や男女差が顕在しにくい運動 豊かな運動量

補欠がない 「誰一人取り残さない」スポーツ（SDGs）

教員としての強味をもつこと

学校以外で所属すること

4. 伝えたいこと

いい授業をしたい すばらしい先輩教員みたいになりたい

みんなといっしょに楽しみたい 授業者として子供の成長を支えたい

先輩がしてくれたように後輩に伝えていきたい

ESDが教員生活を enjoy する秘訣